

2019 ホノルル国際共同研究会と日本古典籍セミナーの開催

さわやかな風が吹くホノルルにて、二日間にわたって開催された研究会（2月28日）とセミナー（3月1日）の様をご報告します。

まずはハワイ大学マノア校にて行われた国際共同研究会について、プログラム順にそって簡単に紹介します。当館副館長（当時）・小林健二氏「Tanrokubon」は、その用語規定からして困難をとまなう「丹緑本」について、事例に即してその分類と意義を説きました。立正大学准教授・伊藤善隆氏「Recycling woodblocks used for illustrated books of haiku」は、俳書を例に、絵入版本の版木が再利用され、それが新たな営為に結実していることを証し、大和文華館館長・浅野秀剛氏「Illustrated oridehon (accordion-folded copybooks for painting), ebangiri (decorated stationery), and kashibukuro (wrappers for sweets)」は絵入折手本、絵半切、菓子袋といった、これまで見過ごされがちであった錦絵周辺の多色摺木版画を紹介しながら、その魅力を存分に伝えました。なお、この二つの発表は、ここ数年にわたり行われた当館・山下則子教授の科研費「在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究」によるレインコレクションの調査の成果であることを申し添えておきます。つづく、カリフォルニア大学バークレー校准教授・ジョナサン・ズッカー氏「Block-printed books in the age of the Digital - the case of the digitized version of SarituUdan」は、歴史的典籍NW事業の国際共同研究にて進行中の『蓑笠雨談』の英訳ならびにデジタル版注釈の実践を例として、公開が進む古典籍画像の利活用を目指す、デジタルヒューマニティーズのいまを示すものとして有意義な内容でした。ブリティッシュ・コロンビア大学教授・ジョシュア・モストウ氏「Gender and Late Edo Editions of The One Hundred Poets with Commentaries and Illustrations」は、江戸時代後期の絵入注入『百人一首』の受容のあり方を検証しながら、ジェンダー論に切り込む斬新な切り口、ハワイ大学マノア校教授・ロバート・ヒューイ氏「Using kotenseki for research on Japanese writing in the Ryukyu Kingdom, with a focus on the Sakamaki-Hawley Collection」はマノア校の坂巻・宝玲文庫のうち、宝玲文庫の琉球文献古典籍調査の実相が紹介され、その豊穡な世界を垣間見せてくれました。

なお、同日、ロバート キャンベル館長による講演も催されました。

翌日は、ホノルル美術館において古典籍セミナーが開催されました。2017年・2018年に引き続き行われたものです。現在継続中であるリチャード・レインコレクションの調査をベースとしながら、当館教員による以下のようなプログラムで構成されました。

落合博志「装訂 (how traditional books are put together)」

神作研一「書型 (shapes and sizes of traditional books)」

恋田知子「絵入本-写本 (illustrated manuscripts)」

入口敦志「嵯峨本 (a type of Edo Period mass-printed book)」

木越俊介「絵入本-版本 (Illustrated block-printed books)」

紙幅の関係で各内容は詳述できませんが、いずれも具体的な資料に即しながら、古典籍をひもとく際のツボを分かりやすくレクチャーする好内容でした。こうしたセミナーは回を重ねるごとに、何を知りたいのか、何を伝えるべきかという相互の理解が深まるようで、質疑応答も活発に行われ、双方向の交流の場としてとても有意義なものであったと思います。

古典籍の調査を通して、調査した研究者がその所蔵先の資料の価値をお伝えするのはもちろん、さらに所蔵機関内外の人々に、広く古典籍の魅力を伝えることの大切さをひしひしと感じた二日間でした。本企画に携わった全ての関係者に感謝申し上げますとともに、このような場に参加できたことの幸せを噛みしめ、今後のさらなる交流の深まりを切に願っています。

付記 本事業は主として、総研大のプロジェクト経費、ならびに、科研費「在米日本古典籍（リチャードレインコレクション）の調査研究と教育活用に関する研究」（国際共同研究加速基金【国際共同研究強化（B）】、代表 神作研一）による成果です。

（木越 俊介）

